

SDS 265 製品名 耐火フェルト(SUPERWOOL Plus ブランケット)

安全データシート(SDS)

1.化学品及び会社情報

化学品等の名称	耐火フェルト(SUPERWOOL Plus ブランケット)
製品コード	-
供給者の会社名	ビルトマテリアル株式会社
住所	東京都目黒区駒場3-12-41
電話番号	03-3460-3111
ファックス番号	03-3460-3110
電子メールアドレス	-
緊急連絡電話番号	-
推奨用途	-
仕様上の制限	-

本製品の組成及び成分情報、危険有害性情報、応急処置に関する情報、取扱い上の注意事項等については、次頁以降の00-I-002に記載された製品製造会社の安全データシート(SDS)をご参照ください。

本データシートは日本産業規格 Z 7253:2012「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」(以下「JIS」という)に準じて作成されており、用語の定義は、JIS に従っています。

本データシートは、製品の安全な取り扱いを確保するための「参考資料」として、作成時点で入手可能又は、弊社の有する情報を取り扱い事業者にご提供するものです。取り扱い事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実体に応じた適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保証するものではなく、本データシートに記載されていない弊社が知見を有さない危険性がある可能性があります。

安全データシート(SDS)

1 製品及び会社情報

- ◇製品の名称 :耐火フェルト(SUPERWOOL Plus ブランケット)
- ◇会社名 :日鉄鋼板株式会社
- ◇住所 :東京都中央区日本橋本町一丁目5番6号 第10中央ビル
- ◇担当部門 :営業総括部
- ◇電話番号 :03-6848-3700
- ◇FAX.番号 :03-6848-3797

「2～16」の項目につきましては、次頁以降の(00-I-002)に記載してあります製品製造会社の安全データシート(SDS)をご参照ください。

本データシートは日本産業規格 Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」(以下「JIS」という)に準じて作成されており、用語の定義は、JISに従っています。

本データシートは、製品の安全な取り扱いを確保するための「参考資料」として、作成時点で入手可能又は、弊社の有する情報を取り扱い事業者にご提供するものです。取り扱い事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実体に応じた適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保証するものではなく、本データシートに記載されていない弊社が知見を有さない危険性がある可能性があります。

安全データシート

【製品名】 「SUPERWOOL Plus ブランケット」

1. 化学物質等及び会社情報

【製品の名称】 SUPERWOOL Plus ブランケット

【一般名称】 アルカリアースシリケートウール(AES)ブランケット

【製品の概要】 分類温度が 1200℃で発がん性分類の対象とならない生体溶解性繊維であり、原料のシリカ、カルシア、マグネシアを電気熔融し、高速回転体の遠心力を利用して製造された繊維を積層し、ニードリングを行いブランケット状（毛布状）にした製品。

【事業者情報】

会社名 : 新日本サーマルセラミックス株式会社

所在地 : 大阪府堺市堺区戎島町 4-45-1 ポルタス・センタービル 12 階

担当部門 : 製造技術部

担当者 : 栗本 忠

電話番号 : 072-341-8515

F A X : 072-341-8517

緊急連絡先 : 072-341-8515

危険有害性の要約

GHS分類:

	分類項目	工業会評価	備考
物理化学的危険性	爆発物	分類対象外	
	可燃性/引火性ガス（科学的に不安定なガスを含む）	分類対象外	
	エアゾール	分類対象外	
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外	
	高圧ガス	分類対象外	
	引火性液体	分類対象外	
	可燃性固体	区分外	不燃性
	自己反応性化学品	分類対象外	
	自然発火性液体	分類対象外	
	自然発火性固体	区分外	不燃性
	自己発熱性化学品	区分外	不燃性
	水反応可燃性化学品	区分外	不燃性
	酸化性液体	分類対象外	
	酸化性固体	区分外	反応せず
	有機過酸化物	分類対象外	
	金属腐食性物質	区分外	データなし
健康有害性	急性毒性（経口・経皮・吸入）	分類不可	データなし
	皮膚腐食性/刺激性	区分外	一過性の刺激あり
	眼損傷性/刺激性	分類不可	データなし
	呼吸器/皮膚感受性		データなし
	変異原性	分類不可	データなし
	発がん性	区分外	EU 分類 適用外

健康有害性	生殖毒性	分類不可	データなし
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類不可	データなし
	特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類不可	データなし
	吸引性呼吸器有害性	分類不可	データなし
環境有害性	水生環境有害性(急性)	分類不可	データなし
	水生環境有害性(長期間)	分類不可	データなし
	オゾン層への有害性	分類不可	

GHSラベル要素 : -

危険有害性情報 :

眼、皮膚などに触れたとき、一過性の機械的刺激を生じることがある。

粉じんを長期にわたり多量に吸入したとき、呼吸器への影響を生じるおそれがある。

注意書き : -

3. 組成, 成分情報

単一製品、混合物	: 単一製品、アルカリアースシリケートウール 100%
化学成分	: SiO ₂ : 60-70%, CaO + MgO : 25-40%,
化審法(官報公示整理番号)	: 登録あり(固溶体のため、化審法上は上記成分の混合物となる)
労働安全衛生法通知対象物	: 314
PRT法	: 非該当
CAS番号	: 436083-99-7

4. 応急措置

眼に入った場合	: 異物感がなくなるまで、流水で洗浄する。眼をこすってはならない。
皮膚についた場合	: 水または微温湯で流し落としたのち、石鹼でよく洗う。痛みが残ったり、なにか症状のあるときは、医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

不燃性なので、火災時の措置は特にない。

6. 漏出時の措置

飛散しないように、掃除機で回収する。
掃除機が使用できない場合は、湿潤な状態にして、掃き集めて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い上の注意]

- ・粉じんが拡散するのを防止するために、屋内の取り扱い作業所には、必要に応じ、局所排気装置等の対策を講じる。
- ・粉じんの飛散を防止することができない場合には、防じんマスクを着用する。
- ・眼、皮膚等への接触を避けるため、適切な保護具を着用する。
- ・水濡れ注意
- ・作業衣などに付着した場合はよく取り除く。
- ・取扱い後は、うがい及び手洗いを励行する。

[保管上の注意]

- ・室内で常温で密封状態で保存する。
- ・水濡れ注意

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 質量濃度（吸入性粉じん）…3.0 mg/m³（遊離けい酸含有率ゼロが適用される）
繊維数濃度は定められていない。

許容濃度： アルカリアースシリケートウールとしての許容濃度は定められていない。

設備対策： 粉じんの飛散源を密閉にするか局所排気装置、除じん装置を設置する。
設置することが困難な場合は下記に定める保護具を使用すること。

保護具：防じんマスク

作業環境中の濃度が、上記の基準を超えるおそれのある場合は、防じんマスクを着用する必要がある。

防じんマスクの型式は、フィルタ交換型が通常は適している。

多くの種類の国家検定品が市販されているので、この中から作業に適したものを選定し、顔面への密着の状態には特に留意するとともに、フィルタの点検と交換などの保守管理を適切に行う。

保護眼鏡

ゴーグル、サイドシール付き保護眼鏡など作業に適した保護具を使用する。

手袋・作業衣

ゴム手袋、長袖の作業衣など作業に適したものを使用し、皮膚が露出しないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態：ウール状、繊維

色：白色

平均繊維径：3～4μm

引火点：非引火性

発火点：なし

爆発範囲：なし

最高使用温度：1200℃

真比重：2.5 ～ 3.0

溶解性：水、有機溶剤に不溶

10. 安定性及び反応性

安定。

11. 有害性情報

(1) 急性作用

眼に入った場合：物理的な刺激作用がある。

皮膚に付着した場合：かゆみや紅斑を生じることがあるが、一過性で慢性障害を生ずることはない。

皮膚刺激性試験 非刺激性 (OECD 439)

(2) 慢性作用

発生する粉じん中に吸入性繊維が含まれるが、吸入しても、排出されやすいため、呼吸器系の障害を生じるおそれ低いと考えられる。

(3) 発がん性

EU 指令 97/69/EC の NotaQ（適用除外要件）に該当し、EU の人造鉱物繊維の発がん性分類では、カテゴリー 0（発がん性なし）に該当する。国際がん研究機関（IARC）では、発がん性の分類の記載がない。

12. 環境影響情報

生体影響についてはデータなし。

1 3. 廃棄上の注意

本製品から発生する廃棄物は、“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”に基づく廃棄物の分類の“ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず”に該当するので、通常の産業廃棄物として取扱って差し支えはない。

1 4. 輸送上の注意

危険性はないが、輸送中の包装の破損などによって粉じんが飛散しないように注意する。
国連分類：なし 国連番号：なし

1 5. 適用法令

労働安全衛生法：表示・通知対象物（人造鉱物繊維）

粉じん障害防止規則：適用^(注)

消防法：適用なし

危険物船舶運送及び貯蔵規則：適用なし

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）：適用なし

(注)アルカリアースシリケートウールは、「粉じん障害防止規則（粉じん則）」において「鉱物」に該当し、次の作業を行う場合は粉じん則の適用を受けるが、「特定化学物質障害予防規則（特化則）」などその他の法規の適用は受けない。

- ① 鉱物（本製品）を裁断し、彫り、または仕上げする場所における作業（粉じん則別表 1 の 6 号）
- ② 鉱物（本製品）を動力により破碎し、粉碎しまたはふるいわける場所における作業（粉じん則別表 1 の 8 号）
- ③ 耐火物を用いてかま、炉等を築造し、若しくは修理し、または耐火物を用いた釜、炉等を解体し、若しくは破碎する作業（粉じん則別表 1 の 1 9 号）

1 6. その他の情報

[その他]

使用前のアルカリアースシリケートウール中には、遊離けい酸は存在しないが、更なる加熱（900℃以上）に伴い、繊維の結晶化が進行し、表面の一部が遊離けい酸の一種であるクリストバライトに徐々に変化を起こす。

使用后、これらの物質を廃棄すると、少量の遊離けい酸が含まれる粉じんが発生する場合がある。

遊離けい酸はじん肺を生じる作用があるため、窯炉の補修、解体等においては、この粉じんを吸入することがないよう注意する必要がある。

なお、管理濃度は次の式で算出される。

$$\text{管理濃度 (mg/m}^3\text{)} = 3.0 / (1.19Q + 1) \quad Q : \text{遊離けい酸含有率(\%)}$$

[参考文献]

- 1) IARC : Monographs on the Evaluation of the Carcinogenic Risk of Chemicals to Humans Vol. 81 (2002), “Man-made Vitreous fibres”
- 2) GFA, RCFA, RWA : 「人造鉱物繊維（MMMMF）繊維数濃度測定マニュアル」（1992）
- 3) ACGIH「許容濃度の勧告」（2017）
- 4) 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」（2017）
- 5) JHIWA : 「高温断熱ウール製品の取扱い」（2018）
- 6) CEN prEN1094-1
- 7) 1272/2008/EC Classification, labeling and packaging of substances and mixtures

この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。